



○卒業

私はこれまでいろいろな卒業式を経験してきました。自分自身の卒業式を挙げてみると、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学です。現在幼稚園の記憶はほとんどありませんが、卒業式を間近にしたある日、園長先生が卒業する子を一人ずつ呼び出して、一対一で風呂敷（だったと思います。）の結び方（蝶々結びも）を教えてくださいました。この場面はなぜか鮮明に覚えています。小学校のときは上級生の式練習に参加して「長いなあ。」と感じていた場面は思い出せますが、自分自身の卒業式の記憶は全くありません。なぜでしょうね。一番記憶が鮮明でなつかしく思い出せるのは中学校のときのものです。義務教育が修了して今まで当たり前のように一緒に過ごした仲間と進む道が分かれるということを実感しました。よく覚えています。高等学校のときは事情により参加していませんので式のことは分かりません。卒業後のことばかりが気になっていました。大学はみんなが集まってみるとすごい人数だったので比較的冷静に観察していました。それよりも卒業式直前まで“はしか”で一週間入院していたことの方が印象深いですね。

学校に勤務し始めてからは送る側として多くの式を見てきました。勤務地の小・中学校や来賓として参加した幼稚園・保育園・小・中学校・高等学校と、数えたらかなりの数になります。幼稚園や保育園では 6 年間育てて「大きくなったなあ。」という保護者の感動を見つめていました。小学校ではそれぞれの学校でいろいろな趣向が凝らされています。卒業生と在校生が向かい合っ、思い出と感謝のことばを述べ合ったりする場面もあります。中学校と高等学校は似ている雰囲気があります。これからそれぞれの進路に向かうという期待と寂しさでしょうか。中学校によっては卒業式当日に違う観点からの苦勞もありますが、これは省略します。

このたび本校でも今年度の卒業式を 3 月 8 日（木）に挙行いたします。準備等は教職員が分担して進めています。比較的オーソドックスな運営・進行になるようです。かなり多くの式を経験してきた私も専門学校の卒業式は初めてです。今は当日のことを想像しています。

さて、卒業証書のことです。私の幼稚園・小学校の証書はどこにいったのでしょうか。捨ててはいないと思いますがどこにあるかが分かりません。中学校・高等学校のものはもちろんあるはずで、大学のもはすぐに取り出せます。就職するにあたって必要となるのは基本的に最終学歴の証書だけですね。今年の専門学校の卒業生も現実的に活用することになります。そういえば高等学校の証書がすぐに取り出せないのは活用することがないからですね。最終学歴の証書も転職することがなければ活用する機会はその後ないかもしれません。

仕事をし始めて社会人となってからはお互いの学歴を話題にすることはほとんどないように思います。よい仕事をするの方が重要です。自分の高学歴を話題にする人がいたとしたら、その人はそのときよい仕事できていないのではないかと想像してしまいそうです。この「たより」の前回号では出身校への誇りをもつことの大切さを記述しましたが、それとは違う観点からお互いの学歴を話題にすることはあまりしない方がよいように私は思います。

つぶやき

（私のエピソード）

大学の卒業式を済ませて自分の証書を確認してみたら名前が違っていることが判明しました。総務（事務室）に行ってそのことを指摘すると、担当の方は「すみませんでした。」ということばとともに奥にもっていき、ささっとペンで書き直して私に手渡されました。私は「あれっ？」と思ったことを覚えています。